

# 第9回 鎌倉名画座 小津安二郎生誕110年記念 「彼岸花」

小津安二郎監督生誕110年、没後50年を記念し、  
作家里見弴の四男で、小津組プロデューサーの山内静夫氏によるトークと、  
小津監督初のカラー作品「彼岸花」を上映いたします。ぜひこの機会にお楽しみ下さい。

日 時	2014. 3. 14 (金) 12:30開場 13:00～トーク 13:20～上映
会 場	鎌倉生涯学習センターホール
入 場 料	全席自由 前売:800円 当日:1,000円 *事前に完売した場合は当日券が無い場合もございますので お早めにお求めください。
チケット取扱い	<店頭販売> 島森書店(鎌倉駅東口)、たらば書房(鎌倉駅西口) 鎌倉文学館  <電話予約・お問い合わせ> 公益財団法人鎌倉市芸術文化振興財団 TEL0467-23-3755 (営業日:火曜～土曜 9:00～17:00 年末年始休業:12/29～1/3)
主催等	主催:(公財)鎌倉市芸術文化振興財団 後援:鎌倉市
映画情報	<b>「彼岸花」</b> 1958年 118分 カラー 松竹大船作品 原作:里見弴 製作:山内静夫 監督:小津安二郎 脚本:小津安二郎、野田高梧 撮影:厚田雄春 美術:浜田辰雄 音楽:斎藤高順 照明:青松明 出演:佐分利信、田中絹代、有馬稲子、久我美子、佐田啓二、山本富士子、 笠智衆、浪花千栄子、渡辺文雄、十朱久雄 ほか  <あらすじ> 大和商事会社の平山歩(佐分利信)と元海軍士官だった三上周吉(笠智衆)は、 会えば懐旧の情を温め合う仲。二人には婚期の娘がいた。 三上の一人娘・文子(久我美子)は親の意思に背いて愛人と同棲しているが 平山が三上のために様子を見に行くと、意外にも文子は真剣に結婚生活を考 えており、平山は安堵にも似た気持ちを感じる。 一方、自分の娘・節子(有馬稲子)には、相談なしに結婚相手(佐田啓二)を決 めてしまったことに腹を立て、妻(田中絹代)や家族を困らせるが、知り合いの娘・ 佐々木幸子(山本富士子)が巧みな計略で結婚を許すと言わざるを得ないよう仕 向ける。平山は怒って結婚は認めるが、式には出ないと言うが…

第9回 鎌倉名画座

小津安二郎  
生誕110年記念

# 彼岸花

原作 里見 弴  
製作 山内 静夫

2014.3.14 [金]

鎌倉生涯学習センターホール

鎌倉市小町1-10-5 (鎌倉駅東口から徒歩3分)

12:30 開場

13:00~ トーク / 山内静夫  
(元映画プロデューサー)



13:20~ 彼岸花



©松竹株式会社

全席自由：前売 800円 当日 1,000円

チケット取扱い：

[窓口のみ] たらば書房 (鎌倉駅西口)、島森書店 (鎌倉駅東口)、鎌倉文学館

[電話予約] 公益財団法人 鎌倉市芸術文化振興財団  
TEL 0467 (23) 3755 (火~土 9:00~17:00)

主催：公益財団法人 鎌倉市芸術文化振興財団

後援：鎌倉市

小津安二郎  
OZU  
110th  
ANNIVERSARY

小津安二郎監督生誕110年記念プロジェクト / 松竹株式会社

HP <http://www.shochiku.co.jp/ozu/>

Facebook <http://www.facebook.com/OzuYasujiroOfficial>

小津調と称される独特の映像世界を築き、  
 世代を超えて日本のみならず  
 世界の映画人に影響を与えた小津安二郎監督。  
 生誕110年を記念し、  
 作家里見淳の四男で、小津組プロデューサーの  
 山内静夫氏によるトークと  
 監督初のカラー作品「彼岸花」をお楽しみください。



©松竹株式会社

# 彼岸花

1958年 118分 カラー 松竹大船作品

原作／里見淳 監督／小津安二郎 脚本／野田高梧、小津安二郎  
 製作／山内静夫 撮影／厚田雄春 美術／浜田辰雄  
 録音／妹尾芳三郎 音楽／斎藤高順 照明／青松明 編集／浜村義康  
 出演／佐分利信、田中絹代、有馬稲子、久我美子、佐田啓二、山本富士子  
 笠智衆、浪花千栄子、渡辺文雄、十朱久雄 ほか

大和商事会社の常務取締役平山渉（佐分利信）と元海軍士官だった三上周吉（笠智衆）は、会えば懐旧の情を温め合う仲。二人には婚期の娘がいた。

三上の一人娘文子（久我美子）は親の意志に背いて愛人と同棲しているが、平山が三上のために様子を見に行くと、以外にも文子は真剣に結婚生活を考えており、平山は安堵に似た気持ちを感じる。

一方、自分の娘節子（有馬稲子）には、相談なしに結婚相手（佐田啓二）を決めてしまったことに腹を立て、妻（田中絹代）や家族を困らせるが、知り合いの娘佐々木幸子（山本富士子）が巧みな計略で結婚を許すと言わざるを得ないよう仕向ける。

平山は怒って結婚は認めるが式には出ないというが・・・

## 演出に当って

今度はじめてのカラー作品で、また暫くぶりに原作ものを手がけるのだが、ぼくは昔から今度の原作者里見先生の愛読者で、従来のおぼくのオリジナルものには度々ヒントを頂いていた位だ。『彼岸花』では結婚適令期にある三人の娘と、容易に意見の合わないそれぞれの親たちの関係が描かれるが、親が自分の娘を嫁にやる場合、他人の娘の場合なら冷静になれるのに、自分の娘となると、いつまで経つても子供に思えてそうはいかない……。つまり人生は矛盾の総和だと言われているが、そういった矛盾だらけの人生とか、ものの哀れに焦点を合わせていきたい。

はじめてのカラーだが、これはぼくらの日常でも、それ程色を意識して生活してはいないのだから、不自然な色彩は避けて、もって生まれた色感で描いていきたい。（「彼岸花」パンフレットより抜粋）

## 小津安二郎監督



©松竹株式会社

鎌倉文学館

収蔵品展 生誕110年

## 小津安二郎

2013年12月7日(土)～

2014年4月20日(日)

北鎌倉に住んだ脚本家で映画監督の小津安二郎を、小津日記などの寄託資料で紹介いたします。

【入館料】一般300(210)円 小中学生100(50)円  
 ※（ ）内は20人以上の団体料金



「彼岸花」に使われた赤いやかん  
 鎌倉市長谷1-5-3 TEL0467-23-3911